

研究分野		授業科目名		科目責任者
環境生態系分野		総合臨床医学研究		桑原 篤憲
開講年次	共通/専攻/選択		単位数	
1~4	必須専攻		20	
目的				
自らが日常診療で生じた疑問（クリニカル・クエスチョン）を解決するために、基礎研究や臨床研究を計画し、実施する。				
授業到達目標				
<p><基礎研究></p> <p>(1) 診療で生じた疑問から仮説を立てる。 (2) 文献を網羅的に検索することができる。 (3) 実験計画書を作成できる。 (4) 基本的な実験手技を行うことができる。 (5) 研究結果を整理することができる。 (6) 論文にまとめることができる。</p> <p><臨床研究></p> <p>(1) 診療で生じた疑問を研究可能な疑問に構造化できる。 (2) 文献を網羅的に検索することができる。 (3) 測定をデザインできる。 (4) 研究の適切な「型」を選択できる。 (5) 比較の質を高くすることができる。 (6) 倫理審査書類を作成できる。 (7) 臨床研究を実施できる。 (8) 研究結果を整理することができる。 (9) 論文にまとめることができる。</p>				
授業計画				
月日	曜日	時間	担当者	授業内容
毎週	火	13:30 - 16:00	桑原 篤憲	臨床研究の基本的及び応用的知識の修得について
評価方法				
<p>(1) 1・2年次に中間発表へ出席する。 (2) 2年次に中間発表で発表する。 (3) APRIN e-ラーニングプログラム（eAPRIN）の必須単元を受講する。[受講期間：1年次に受講。] (4) 1週間ごとに研究内容を履修手帳にまとめ、科目責任者の認定印をもらい、学期ごとに提出する。</p>				
課題（レポート等）に対するフィードバック				
<p>(1) 1週間ごとの実験内容報告に対し、指導・助言を行う。 (2) 中間発表の抄録作成時に、指導・助言を行う。</p>				
教科書				
ISBN-9784903803265, 臨床研究の道標 第2版〈上巻〉, 福原俊一, 認定NPO法人健康医療評価研究機構, 2017 ISBN-9784903803272, 臨床研究の道標 第2版〈下巻〉, 福原俊一, 認定NPO法人健康医療評価研究機構, 2017				
参考書				
ISBN-9784307004824, できる!臨床研究最短攻略50の鉄則, 康永秀生, 金原出版, 2016 ISBN-9784307004787, 必ずアクセプトされる医学英語論文: 完全攻略50の鉄則, 康永秀生, 金原出版, 2016 ISBN-9784260019545, 今日から使える医療統計, 新谷歩, 医学書院, 2015 ISBN-9784498109186, 無料統計ソフト EZR でやさしく学ぶ統計学 改訂3版: EBM の実践から臨床研究まで, 神田善伸, 中外医学社, 2020 ISBN-9784061563216, みんなの医療統計: 12日間で基礎理論と EZR を完全マスター!, 新谷歩, 講談社, 2016 ISBN-9784061563216, みんなの医療統計 多変量解析編 10日間で基礎理論と EZR を完全マスター!, 新谷歩, 講談社, 2017				
準備学習（予習・復習等）				
<p>(1) 日常診療で疑問に思ったことを書き留めておくこと。（5分程度） (2) 教科書を通読すること。（60分/回程度） (3) 臨床研究を選択した場合、1年次に、臨床研究遠隔学習プログラム gMAP を受講するので、毎月1~2時間程度の講義動画を視聴すること。</p>				
修了認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連				
<p>(1) 臨床研究や基礎研究を学ぶことで、仮説検証や EBM 実践のために必要な能力を身につけることができる。 (2) 生産管理や品質管理などの業務改善を円滑に進める手法として、PDSA サイクル※が知られている。これを自らの診療に適用し、診療の質を管理・維持・向上させる活動として、臨床研究をとらえる。 ※PDSA サイクル: Plan (計画), Do (実施), Study (研究), Act (改善)</p>				

(3) 臨床研究計画を立案する上で、被験者に対する倫理性が必要とされ、倫理感が成熟されるものと思われる。以上から、臨床研究を学ぶことで、専門分野の深い学識を獲得するのみならず、日常診療で役に立つ仮説検証や EBM 実践能力、マネジメント能力、高い倫理観が得られるものと思われる。

注意事項・メッセージ

臨床研究を実施することにより、診療能力や診療の質の向上が得られると考えられます。また、あなたが行った臨床研究によって、新たなプラクティス生まれるかもしれません。なお、当教室の指導教員のうち、2名が gMAP の指導を行っており、2名が gMAP の受講経験があります。1人の大学院生につき、1人の担当メンターをつける予定です。

<その他>

- 1年次に、臨床研究遠隔学習プログラム gMAP を受講する。
- 2年次に、臨床研究に関するワークショップに参加する。
- 3・4年次に、臨床研究に関するワークショップでファシリテーターとして参加する。